

〒400-0032 山梨県甲府市中央1-1-11-2F
電話055-237-5523 FAX055-237-5281
http://www.akaike.com ma@akaike.com

赤池まさあき 国政ニュース

イケイケ、あかいかいけ!

がん対策の強化を！

県内にがん治療の最先端拠点が開設

●長寿大国はがん大国

石和温泉に隣接した春日居リハビリテーション病院では、来春開設に向けて「サイバーナイフセンター」を建設中です。「サイバーナイフ」とは、がんの最先端治療法です。

統計によると、日本人の二人に一人ががんにかかり、三人に一人(約七〇万人)が毎年がんで亡くなっていると言います。日本人の死因のトップががんで、その割合は世界一です。世界一の長寿国である日本は、世界最大のがん大国でもあるのです。

個人的にも、父を十一年前に前立腺がんで亡くしました。また、今年になって、後援会長が肝臓がんで急逝しました。がん対策の強化の重要性を、改めて痛感しました。

●がんの治療法

がんの治療法には、大きく分けて五つあります。①外科療法(手術で切除)、②化学療法(抗がん剤)、③放射線療法、④免疫療法、⑤遺伝子療法です。

脳にがんができた場合、表面に近ければ頭蓋骨を切り取って、メスで切除してしましました。脳の手術の歴史は古く、紀元前二千年前の頭蓋骨にも手術の後が残っているほどです。脳は体の司令塔ですから、がん切除の手術をする際に、他の部位を傷つけないように大変な気の遣いようです。

●脳手術

実際に、脳を手術する映像を見せられて頂いたことがあります。言語を司る左脳の前頭部を手術する際には、手術中に患者に数字を一から順に読み上げてもらったり、絵を見せてそれが何の絵か答えたりしてもらいながら、手術してました。言葉がとまったから、がん以外の別の部位に触れた証拠だということで、一つ一つ患者の反応を見ながら、手術を行っていました。その労力たるや大変なものがあります。



がん治療の最先端機器サイバーナイフ

脳の表面部にできたがんは、外科手術で取り除けるのですが、脳の深部にできたがんは手術では容易に取り除けません。それに有効なのが、放射線療法です。がん細胞は、正常細胞と違って、放射線のガンマ線を使って、がんを切除するものです。しかし、短所がありました。それは、がん患部に対して正確にガンマ線を照射するため、患者(患部)を絶対動かないように固定する必要があります。頭をポルト(Pin)でとめて固定するのです。麻酔をするとはいえ、見るからに痛そうです。そして、直径三センチ以上の大きながんは対応できないと言います。

その後、ガンマ線ではなくエックス線を使ったエックスナイフ(リニアック)が登場します。ガンマナイフ同様、ピンで固定しますが、三センチ以上の大きながんにも対応します。ピンでない固定法もありますが、通常はピンで止めます。ただガンマナイフに比較して、治療時間がかかるのが欠点だと言われています。

●サイバーナイフとは
以上二つの短所を補うべく登場したのが、サイバーナイフです。サイバーナイフとは、言葉通りサイバー(目に見えない)ナイフ(手術用のメス)の意味で、レントゲンで使う放射線のエックス線を照射することによって、がんを切除する医療機器です。診断ではなく、治療する装置です。

一九九四年にアメリカのスタンフォード大学のアドラー教授が開発しました。特色は二つで、ロボットアームと正確な位置認識システムです。二つ目の特色であるロボットアームは、寝ている患者さんに対して、六つの関節が自由自在に動き、一二〇〇の角度から繰り返し放射線を照射することができます。

二つ目の特色である位置認識システムは、軍事技術である巡航ミサイルの誘導システムを活用しているのです。天井に据え付けられた二台のエックス線カメラが患者のを撮影して、あらかじめ撮影した画像と重ね合わせ、正確に位置を認識して、ロボットアームを誘導します。今までのようにポルト(Pin)固定はならず、顔面にマスクを装着するだけです。顔がわずかに動いても、ロボットアームがすぐ角度を修正します。

●放射線療法とは
放射線療法は、一九六八年にガンマナイフとして始まりまし。これは、放

〒400-0032 山梨県甲府市中央1-1-11-2F
電話055-237-5523 FAX055-237-5281
http://www.akaike.com ma@akaike.com

赤池まさあき 国政ニュース

イケイケ、あかいけ!

平洋地域に二十七台、そして我が日本に二十三台しかありません。それも大都市中心です。そのサイバーナイフの最新型G四が最近開発されました。今までの型より放射線のパワーが倍となりました。日本では、今年中に都立駒込病院に日本第一号として配置され、来春には二台目として、山梨県の春日居リハビリテーション病院に導入されることになっています。

サイバーナイフは、脳のがんや様々な障害に威力を発揮しますが、脳だけでなく体幹部の治療も可能です。今のところ、医療保険の適用が脳と肺、肝臓だけであり、保険適用で二十円弱程かかります。それ以外の部位は保険がきかず、六十万円以上かかってしまいます。ただ順次保険適用が拡大される見込みです。

放射線療法の副作用として、髪が抜けたり、気分が悪くなったりとあまり良いイメージがないのですが、最新型のサイバーナイフはそれを軽減できるそうです。

サイバーナイフセンターが山梨に開設されることによって、希望をもって生きる方が増えることを期待しています。

●がん対策の現状

平成十八年六月二十三日に「がん対策基本法」が制定されました。「がんが国民の疾病による死亡の最大の原因」であり、「国、地方公共団体、医療

保険者、国民及び医師等の責務を明らかにし「がん対策の推進に関する計画の策定」を行い、「がん対策を総合的かつ計画的に推進することを目的」としています。

その法律に基づき、平成十九年から五年間のがん対策基本計画が策定されました。重点課題は三つです。

- (一)放射線・化学療法推進
- (二)緩和ケアの充実、
- (三)がん登録の推進

がん対策は、放射線と化学療法、緩和ケア、がん登録

●(一)放射線療法及び化学療法の推進並びに専門的に行う医師等の育成

日本のがん医療については、手術の水準が世界の中でもトップクラスであるのに対して、相対的に放射線療法及び化学療法が不十分であり、三つの療法を効果的に組み合わせる集中的な治療を実現することが求められています。

がん患者のうち放射線治療(併用も含む)を実施している患者数の割合は、米国が六十八%、ドイツが六十%、英国が五十六%と過半数を超えているにもかかわらず、日本はわずか二十五%と低迷しています。

放射線へのアレルギー、過敏な部分があるのかもしれない。

●(二)治療の初期段階から緩和ケアの実施

がん患者の多くは、がんと診断された時から身体的な苦痛や精神心理的な苦痛を抱えており、その家族も様々な苦痛を抱えています。そのことから、治療の初期段階から「緩和ケア」が実施されるように国は推進しようとしています。日本の場合、緩和ケアは

うための体制を整備するとしていきます。

以上三つの重点課題を克服することによって、十年以内にがんによる死亡者の減少(七十五歳未満の年齢調整死亡率の二十%減少)、すべてのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上を図ることが、全体目標とされています。

ちょうど今年平成二十三年度は、五年計画の最終年度であり、厚生労働省の審議会では計画の進捗状況をチェックし、次期計画が練られているとことです。残念ながら、政権交代もあり、この五年間の成果は十分とはいえません。

そのような状況の中で、官に頼らず、民間病院である春日居リハビリテーション病院サイバーナイフセンターの試みは、地方から医療の充実を図ろうという大変素晴らしい挑戦だと思えます。

●医療ツーリズム構想

サイバーナイフは「医療ツーリズム」にもつながります。

経済産業省は平成二十一年八月に「医療ツーリズム」の研究報告をまとめています。医療ツーリズムとは、日本の高度先進医療を受けるために、海外から患者やその家族を受け入れようというものです。その目的は研究会報告によると以下のようなものです。

「日本の医療を国際ブランドとして確立し、国際市場を開拓することで、サービス産業としての医療の振興とともに、病院経営の改善、周辺アレージ産業の創出等の国内医療の発展と医療機器、医薬品等関連産業の国際競争力向上の基盤を構築する。」

官民一体となった協議会(コンソーシアム)が設立されて、課題を一つ一つクリアにしながら、法律や予算の整備が行われる予定でした。

ところが、この報告書がまとまったのは、まさに総選挙中であり、政権交代して民主党政権となって、医療ツーリズムの振興策も店晒しになってしまいました。

春日居リハビリテーション病院は、日本有数の温泉リゾートである石和温泉と隣接しています。サイバーナイフセンターが開設されれば、石和温泉と連携して、アジア太平洋地域から患者やその家族を受け入れることも可能になると思えます。

赤池誠章。昭和三十六年生まれ。甲府一高、明治大学卒業。松下政経塾第七期生。第四十四回衆議院議員選挙で当選。若手政策集団「伝統と創造の会」事務局長をはじめ、道義大國日本の再建をめざした活動を幅広く展開。捲土重来を期し、奮闘中。